



Special Olympics

2016年度 ルール変更 対照表

競技名:ポッチ(SOポッチャ)

日本語版において競技名が変更になりました。【変更前】ポッチャ → 【変更後】ポッチ(SOポッチャ)

変更前の内容	変更後の内容
	ルール変更対照表には、内容の変更があった箇所のみ記載しています。
セクションA－公式種目	2. 公式種目 2.6 シングルス ランプ使用(1チーム1人編成)
セクションB - コートおよび用具 c. この壁は、木材やプレキシグラスといった硬い材質で作られていることが望ましい。 2)ハーフコートライン - 各フレームの開始時にパリーナの投球として認められる最小距離。競技中にパリーナの位置は通常のプレーによって変わることがあるが、ハーフコートラインより手前にパリーナが停止した場合、そのフレームは無効とみなされる。 2. 用具	3. コートおよび用具 <削除> 3.1.3.2 ハーフコートライン - 各フレームの開始時にパリーナの投球として認められる最小距離。競技中にパリーナの位置は通常のプレーによって変わることがあるが、ハーフコートラインより手前またはライン上にパリーナが停止した場合、そのフレームは無効とみなされる。 3.2 用具 3.2.1 ポッチ(SOポッチャ)ボールとパリーナ 3.2.1.2 ポッチ(SOポッチャ)は8個のボールとパリーナ(ジャック、キュー、ビービーなど)と呼ばれる、それより小さい大きさの目標、的になる1つのボールを使って競技する。 3.2.1.3 それぞれの側つまり1チームに4つのボールがあり、それらは、1つのチームのボールを相手チームのボールと識別するために通常2色で作られる。(4.2のボールの色の選択課程を参照) 3.2.1.4 また、同じチームの別のプレイヤーのボー

<p>c. 2つの物体間の距離を正確に測ることができるものであり、大会審判員が認めるものとする。</p> <p>デビジョンングにおいては、ミリメートル単位の日盛りが付いている格納式の金属製メジャーを使うこと。</p>	<p>ルと識別するために、それぞれ別の線をポッチ(SO ポッチャ)ボールに施してもよい。</p> <p>3.2.2 計測器</p> <p>3.2.2.1 計測器は2つの物体の間の距離を正確に測れるものであれば、どんな器具でもよく、公式審判員が認めるものとする。 <削除></p> <p>3.2.3 ランプ</p> <p>3.2.3.1 ランプはアスリートが片手あるいは両手を使ってもボールを転がす能力を持っていないときに使用される。</p> <p>3.2.3.2 ランプと他の補助用具は競技委員会の承認があれば使用することができる。</p> <p>3.2.3.3 ポッチ(SO ポッチャ)ボールやパリーナに推進力を与える機械的補助具は使用できない。</p> <p>3.2.3.4 シングルス競技に限って、ランプを使うアスリートは他のプレーヤーとは異なるデビジョンに入れなければならない。</p> <p>3.2.3.5 競技会の他のルールがすべてランプデビジョンにいるアスリートに適用される。</p>
<p>セクションD - 競技ルール</p> <p>c. 3 投ルール - (前略)</p> <p>これら3回の試投が失敗した場合、相手チームは1回のパリーナ投げ入れが認められる。 この試投も失敗した場合、審判はコート 15.24m(50 ft) 地点(反対側のファウルライン)の中央にパリーナを置く。(後略)</p> <p>e. 最初の得点 最初に得点する機会は、常にパリーナを持つチームに与えられる。(中略)この場合でも、最初に得点する機会がチーム A に改めて与えられる。</p>	<p>4. 競技ルール</p> <p>4.3 3 投ルール</p> <p>4.3.1 (前略)</p> <p>パリーナがハーフコートライン上または反対側の3.05メートル(10フィート)ライン上に着地した場合は投球失敗とみなされる。</p> <p>これら3回の試投が失敗した場合、相手チームは1回のパリーナ投げ入れが認められる。この試投も失敗した場合、審判はコート 12.20m(40 ft) 地点の中央にパリーナを置く。 (後略)</p> <p>4.5 最初の基準地点</p> <p>4.5.1 最初の基準地点を設定するのは常にパリーナを持つチームの義務である。(中略)この場合でも、最初の基準点を再設定するのはチーム A の</p>

<p>h. コーチング</p> <p>1)一旦アスリートまたはパートナーがコートに入った後は、2人と協議することは禁じられる。</p> <p>3. ユニファイドスポーツ®チーム</p> <p>c. 各試合は、コイントスで開始する。トスに勝ったチームの選手がパリーナを投げ、最初のボールを投げることで試合が開始される。第2投は、相手チームの選手によって行われる。</p>	<p>義務である。</p> <p>※訳注: 英文は変わっておらず、日本語の翻訳を修正しました。</p> <p>4.9 コーチング</p> <p>4.9.1 コーチあるいは観客とアスリートまたはパートナーが協議することは、一旦アスリートやパートナーが競技会運営者／大会責任者が定めた競技エリアに入った後は、禁じられる。</p> <p>4.12 ユニファイドスポーツ®チーム</p> <p>4.12.3 このルールの中には、誰(アスリートにせよパートナーにせよ)がパリーナと最初のボールを投げるかに関して規定はない。投球順はゲームごとあるいはフレームごとに変わることがある。</p>
<p>6.ペナルティ</p> <p>1) ファウルライン・ファウル:</p> <p>スコアリングやヒッティングにおいて、ボールが手を離れ、決められたファウルラインの手前のコート内にボールが着地する前に、選手の足のどの部分も、またアスリートが使用する車椅子、杖等の器具のどの部分もファウルラインを越えないこと。</p>	<p>5. ペナルティと抗議</p> <p>5.5 反則</p> <p>5.5.1 ファウルライン・ファウル</p> <p>5.5.1.1 ポインティングやヒッティングにおいて、ボールが手を離れ、決められたファウルラインの手前のコート内にボールが着地する前に、選手の足のどの部分も、またアスリートが使用する車椅子、松葉杖、ステッキ等の器具のどの部分もファウルラインを越えてはならない</p> <p>5.5.2 動いているボールやパリーナ</p> <p>5.5.2.1 主審はプレー中のパリーナやボールが完全に止まるまでは次の投球を求めない。</p> <p>5.5.2.2 いかなるゲーム形式においても、もしプレーヤーがパリーナや投球されたボールが完全に止まる前に自分のボールを投じた場合、その投げられたボールが“競技中のボール”に到達する前に、安全に審判によって止めることができた場合、ボールデッドを宣告し、コートから取り除かれる。もし、審判が“競技中のボール”に到着する前にボールを止めることができない場合、審判はパリーナとそ</p>

	<p>の近くのボールをその不適切な投球が行われる前の場所に戻し、たった今投球されたボールをコートから取り除く。</p>
<p>セクションE – 競技用語の定義</p>	<p>7. 競技用語の定義 7.2 無効なボール 7.2.9 パリーナや投げられたボールが完全に止まる前に投げられた場合</p>